地理歴史科（地理総合）　学習指導案

日　　時　令和８年２月 19 日（木）
　　第３校時 10：20～11：00
学 校 名
対　　象　第 1 学年　組　　名
会　　場　３　階　　教　室
授 業 者

１　単元名

「持続可能な地域づくりと私たち―生活圏の調査と地域の展望―」
教科書：「新地理総合」（帝国書院）、「新詳高等地図」（帝国書院）
資料集：「新詳地理資料 COMPLETE　2025」（帝国書院）

２　単元の目標

・　生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。
・　生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
・　生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決する態度を養う。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解している。	①　生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	①　生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

４　指導観

⑴　単元観

本単元は、高等学校学習指導要領（平成 30 年３月告示）第２章　第２節　地理歴史　第１　地理総合

２　内容 C　持続可能な地域づくりと私たち ⑵　生活圏の調査と地域の展望 空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。
(ｱ) 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解すること。
イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(ｱ) 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

3　内容の取扱い

⑵　内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。
ウ　内容のＣについては、次のとおり取り扱うものとすること。
(ｲ) ⑵については、次のとおり取り扱うこと。
「生活圏の調査」については、その指導に当たって、これまでの学習成果を活用しながら、生徒の特性や学校所在地の事情などを考慮して、地域調査を実施し、生徒が適切にその方法を身に付けるよう工夫すること。

を受けて設定した。

本大項目は、前大項目の学習成果を踏まえ、国内外の防災や生活圏の地理的な課題を主な学習対象とし、地域性を踏まえた課題解決に向けた取組の在り方を構想する学習などを通して持続可能な地域づくりを展望することを主なねらいとしている。また、本単元は、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、生活圏の地理的な課題を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などを理解できるようにすることが求められている。

そこで、本単元では、「持続可能な地域づくり」という主題を設定し、この主題を基に、「持続可能な地域はどのように創られるのか。」という単元を貫く問いを設定する。

単元のねらいを達成するために、第１時から第４時までは地域調査のはじめに行う「地域を評価する手法」を学び、地域に見られる事象やその分布や傾向を生徒が把握することができるようにする。第５時以降にその手法を用いて、生徒が地域の課題を見いだし、追究していけるようにする。

具体的には、第１時では、前単元の自然災害と防災に関連付け、生活圏の安全性を間主観的に評価する手法を理解し、関東大震災前後の東京の街づくりを基に、「地震火災に強いのはどのような街なのだろうか。」という問いを多面的・多角的に考察し、表現する。第２時では、生活圏内の地域の観光を分析することで、地域に求められる持続可能な観光を考察、構想し、表現する。第３時では、生活圏の空き家問題について、空き家の生じる理由とその分布に着目し、空き家問題の解決に求められる取組を多面的・多角的に考察、構想し、表現する。第４時では、生活圏のＮＩＭＢＹ（Not In My Back Yard）施設について、その立地と周辺地域への影響に着目し、地域住民の合意形成に求められる取組を多面的・多角的に考察、構想し、表現する。第５時以降は、生徒が自ら地域の課題に対する問いと仮説を立て、地図の読み取りや統計分析などを行い、 解決への取組を構想し、発表する学習を行う。

なお、現行の学習指導要領実施状況調査（暫定値）の結果、中学校社会科地理的分野で「地域調査を実施した」学校は全体の約１割に留まっており、地域調査の学習経験が乏しいことがうかがえる。このことから「地理総合」の地域調査は、６年次に設定されている「地理探究」の大項目Ｃ「現代世界におけるこれからの日本の国土像」を学習する際に働かせる地理的な見方・考え方につながる重要な学習機会であると言える。本単元を通じて、地域調査の手法を確実に身に付けられるようにする。

⑵　生徒観

本校は中等教育学校であり、前期課程で学んだ知識や考え方を後期課程で広げ、深める学習を実施している。また、四年制大学進学を志す生徒が多く、大学受験の社会科科目に「地理総合・地理探究」を選択する生徒もいる。そのため、生徒には大学受験に対応できる知識や概念の習得を期待している様子が見られる。それゆえ、「地理総合」でも「地理探究」程度まで学習内容を深めて実施している。

対象学級は授業に前向きに取り組む生徒が多い一方、他者との対話や学級全体の場での発言は控えめである。そこで、自らの考えをアウトプットすることに自信がもてるよう、意見を共有しやすい学習環境をつくっていく。具体的には、対話を喚起するために机を近づけて配置し、生徒同士が自然に対話しやすい空間をつくる。また、授業者は生徒の発言を否定せず、まずは受容的に傾聴し、必要に応じて軌道修正するなどファシリテートに努める。

⑶　教材観

本単元で使用する教材は、教科書、ワークシート、授業スライド、各種地理情報システム（ＧＩＳ）である。そのため、デジタル端末を毎時間使用する。

地域調査には、まず複数の資料や地図から諸情報を読み取り、他地域と比較することで、対象地域の特徴や傾向を把握する必要がある。それを基に地域の課題を見いだし、解決への取組を多面的・多角的に考察し、構想することになる。この地域調査の手法を生徒が理解し、自ら探究することができるように、第５時以降も活用できるようなＧＩＳを第１時～第４時までに使用する。具体的には、人口推移や空き家、老年人口、単身家庭などの分布を閲覧できる国土交通省・総務省のＧＩＳや地域調査ツール、土地利用の変遷を比較できるＧＩＳである。

また、「地域」は多面的・多角的な観点から捉えられるとともに、複数の人間同士の間で共有される主観・認識（間主観）を通じて理解され、創られる。そのため、本単元では間主観的に地域を評価する学習を行うに当たり、生徒や班同士の学習成果の共有を重視する。そこで、ワールドカフェ方式による成果の共有や、共同編集スライドを用いた成果発表の時間を各時間に取り入れる。

５　年間指導計画における位置付け

本単元の年間指導計画における位置付けを以下に示す。

単元の項目	配当時数（70 時間）
A　地図や地理情報システムで捉える現代世界	
⑴　地図や地理情報システムと現代世界	
・　地球上の位置と時差	３時間
・　地図の役割と種類	３時間
・　結び付きを深める現代世界	５時間
B　国際理解と国際協力	
⑴　生活文化の多様性と国際理解	
・　世界の地形と人々の生活	14 時間
・　世界の気候と人々の生活	15 時間
⑵　地球的課題と国際協力	
・　食糧問題	５時間
・　地球環境問題	２時間
・　資源・エネルギー問題	２時間
・　人口問題	２時間
・　移民・難民問題	２時間

・　都市・居住問題	1時間
C　持続可能な地域づくりと私たち	
⑴　自然環境と防災	7時間
⑵　生活圏の調査と地域の展望（本単元）	9時間

6　単元の指導計画と評価計画（全９時間）

○：「評定に用いる評価」●：「学習改善につなげる評価」

時	目標	○　学習内容　・　学習活動	評価規準			
			知	思	主	評価方法等
第１時 (本時)	単元を貫く問い 「持続可能な地域はどのように創られるのだろうか。」					
	・　生活圏の調査を基に、安全性を間主観的に評価する手法を理解する。 ・　関東大震災前後の東京の街づくりを基に、地震火災に強い街について多面的･多角的に考察し、表現する。 MQ：地震火災に強いのは、どのような街なのだろうか。	○　単元を貫く問いに対する予想を確認する。 ・　事前課題としていた振り返りシート内の単元を貫く問いに対する予想を、ペアで共有する。 ○　関東大震災の影響を理解する。 ・　震災前後の街を新旧地図から比較し、差異と理由を推測する。 ○　立川市内の諸地域の防災力を分析し、地震火災に強い街について考察する。 ・　４人一組で､各地域の木密地域、公園、老年人口割合などをまとめ、災害への強靭度を考察する。 ・　他班のまとめた結果を、ワールドカフェ方式でワークシートに書き写す。 ○　本時の学習を振り返り、本時の問いに答える。 ・　本時の問いに対する答えを、振り返りシートにまとめる。	●	●		ア―①（ワークシート記述分析） イ―①（振り返りシート記述分析）
第２時	・　生活圏の観光に関する課題の解決に向けた取組や分析する手法について理解する。 ・　持続可能な観光に着目して､地域の観光の展望を考察、構想し、追究する。	○　地域の観光の特徴を理解する。 ・　地域分析サイトから、観光客がどこからどの時期に来ているのか分析し、ワークシートにまとめる。 ○　地域の観光について、持続可能な観光に着目して、その展望を考察、構想し、表現する。 ・　班で地域の観光の強みと弱みを	●	●		ア―①（ワークシート記述分析） イ―①（振り返りシート記述分析）

	MQ：身近な地域を、どのような観光で盛り上げるべきか。	分析し、共同編集用スライドにまとめる。それを踏まえて、今後、必要となる方策を提言する。 ・　他班の成果を聞き、ワークシートにまとめる。 ○　本時の学習を振り返り、本時の問いに答える。 ・　本時の問いに対する答えを、振り返りシートにまとめる。				
第３時	・　生活圏の空き家問題について、空き家の生じる理由とその分布を理解する。 ・　空き家の利活用に着目して、求められる取組を多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 MQ：身近な地域の空き家問題を、どのように解決すべきか。	○　先進国の中でも日本に空き家が生じやすい理由を理解する。 ・　資料を基に、世帯数と新築家屋数を比較し、住宅ストックは既に十分あることを確認する。 ○　空き家が地域にどのような影響をもたらすのか理解する。 ・　空き家の放置事例を調べ、その影響をワークシートにまとめる。 ○　空き家の利活用を構想する。 ・　空き家をどのように活用すべきかグループで検討し、ホワイトボードにまとめる。 ・　班のまとめをワールドカフェ方式で共有し、他班の構想をワークシートにまとめる。 ○　本時の学習を振り返り、本時の問いに答える。 ・　本時の問いに対する答えを、振り返りシートにまとめる。	●	●		ア―①（ワークシート記述分析） イ―①（振り返りシート記述分析）
第４時	・　生活圏のＮＩＭＢＹ施設について、その立地と周辺地域への影響を理解する。 ・　生活圏のＮＩＭＢＹ施設への地域住民の合意形成に着目して、 合意形成に求められる取組を多面的･多角的に考察、構想し、表現する。	○　身近なＮＩＭＢＹ施設を確認する。 ・　ブレーンストーミングを行い、教室全体で共有する。 ○　昭島･立川間に大規模配送センターが建設される是非を検討する。 ・　配送センターができることによる影響を書き出す。 ・　住民の合意形成事例を基に、建設の是非を議論する。 ・　班のまとめをワールドカフェ方式で共有し、他班の検討結果をワ	●	●		ア―①（ワークシート記述分析） イ―①（振り返りシート記述分析）

	MQ：ＮＩＭＢＹ施設をどのように受け入れるか。	ークシートにまとめる。 ○　本時の学習を振り返り、本時の問いに答える。 ・　本時の問いに対する答えを、振り返りシートにまとめる。				
第５時 ～ 第７時	・　生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	○　生徒自らの生活圏の地理的な課題を確認する。 ・　デジタル端末を活用し、課題の広がりや分布、原因を追究する。 ○　生活圏の地理的な課題に関する主題と仮説を設定する。 ○　生活圏の地理的な課題の解決への取組を構想する。 ・　構想した取組をスライドにまとめる。	●	●		ア―① （ワークシート記述分析） イ―① （作成したスライド、振り返りシート記述分析）
第８時 ～ 第９時	・　生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を基に、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	○　生活圏の地理的な課題の解決への取組を発表する。 ・　発表者はスライドを用いて発表を行い、聞き手はコメントシートに感想や取組への是非をまとめる。 ○　単元の学習を振り返り、単元を貫く問いに答える。 ・　単元を貫く問に対する答えを、振り返りシートにまとめる。		○	○	イ―① （発表、振り返りシート記述分析） ウ―① （発表、振り返りシート記述分析）

7　指導に当たって

班テーマ「指導と評価の一体化を実現する単元計画の作成
～多面的・多角的な考察を促す資料の精選・効果的な活用を基にして～」

【班テーマに迫るための手立て】

・　ＯＰＰＡ（One Page Portfolio Assessment）に基づく振り返りシートを活用する。

振り返りシートを活用して単元の初めに、単元を貫く問いに対する予想を立て、毎時の振り返りを行い、最終的に単元を貫く問いに対する解答を記述できるようにする。この一連の学習活動により、毎時の学習内容の定着を図るとともに、単元を通した自身の成長を実感できるようにし、学ぶ意欲の向上を図る。また、毎時、シートを回収し、フィードバックを行うことで、生徒に学習の調整を促すとともに、授業者の授業改善に生かし、指導と評価の一体化を図る。

・　多面的・多角的な考察を促す資料の作成・活用を行う。

教科書や資料集に記載されている諸資料に加えて、問いに対して多面的・多角的な考察を促す資料を作成・活用する。本単元では、「空間的相互依存作用や地域などに関わる視点」に着目した資料を作成・活用し、地理的な見方・考え方を働かせ、考察を深めることができるようにする。

8　本時（全９時間中の第１時）

⑴　本時の目標

・　生活圏の調査を基に、安全性を間主観的に評価する手法を理解する。

・　関東大震災前後の東京の街づくりを基に、地震火災に強い街ついて多面的・多角的に考察し、表現する。

⑵　本時の展開

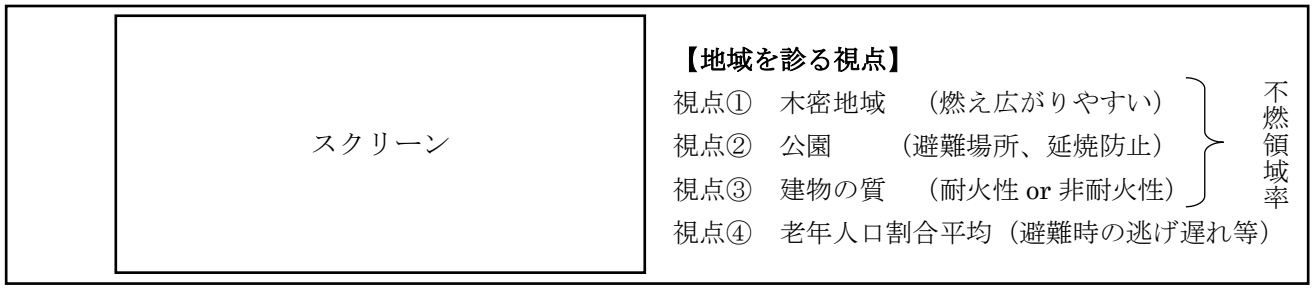
時間	○　学習内容　・　学習活動	指導上の留意点、配慮事項	評価規準 （評価方法）
導入 （３分）	○　本時の目標を確認し、学習の見通しを立てる。 ・　本時のメインクエスチョン（ＭＱ）を確認し、仮説を立てる。 ＭＱ：地震火災に強いのは、どのような街なのだろうか。		
展開① (15 分)	ＳＱ1：東京は関東大震災からどの様に復興を遂げたのか。 ○　関東大震災の被害を確認する。 ・　なぜ被害が大きくなったのか、その理由を陸軍被服廠の写真から予想する。 ○　関東大震災前後の街並みの変化を読み取る。 ・　ペアで、ワークシート及びデジタル端末に表示した新旧地形図の比較を行う。 ・　資料と授業者の補足説明から、後藤新平が行った帝都復興事業の概要を確認する。	・　写真の着眼点を述べて、読み取りを支援する。 ・　新旧地形図の比較に手間取っている生徒には操作上の支援を行い、早くに終わったペアについてはその意見を収集しておく。	
展開② （３分）	○　災害に弱い地域とはどのような地域か理解する。 ＳＱ２：地震火災に弱い街はどんな街か。 ・　帝都復興事業対象外の地域と対象地域の比較を行い、街並みの差異を見いだす。 ・　老年人口が地域の防災力の低下の一因となり得ることに気付く。	・　対象地域に暮らしている人々もいるため、否定的に捉えないよう促す。 ・　阪神淡路大震災の「共助」に言及し、高校生などの若い世代の力が地域に必要とされていることに触れる。	
展開③ (17 分)	○　各地域の木密地域、公園、老年人口割合などをまとめ、地域の災害への強靭度を総合評価する。	・　不燃領域率の向上が、地震火災に強い街に寄与することに触れる。	

	ＳＱ３：立川市内の各地域は地震火災に強いか、弱いか。		
	・　４人一組のグループで、各自が各種ＧＩＳから情報を見いだす。 ・　見いだした情報を基に、担当地域を総合評価する。 ・　大判プリントに記述する。 ・　ワールドカフェ方式で、他班のまとめた結果を見て、ワークシートにまとめる。	・　どの班がどの地域を担当するのか分かりやすく明示する。 ・　地図の読み取りや、自分の担当する課題の情報をまとめることにつまずいている生徒に対して、机間指導で支援する。 ・　展開①で学んだ視点を生かすように指示する。	ア―①（ワークシート記述分析）
まとめ（２分）	○　MQに対する自分の考え（MA）を表現する。 ・　ワークシートにMAを書き込む。	・　振り返りシートに、本時の問いへの回答と単元を貫く問いへの事前回答を記入して次回提出するよう、指示する。	イ―①（振り返りシート記述分析）

※　イ―①の評価の基準

A（十分達成できる）	B（概ね達成できる） ★到達目標	C（目標を達成していない）
地震火災に強い地域の在り方について、関東大震災以降の東京の街づくりの複数の要素と立川市内の分析で用いた要素を関連付けて、適切に記述している。	地震火災に強い地域の在り方について、関東大震災以降の東京の街づくりの複数の要素を関連付けて、適切に記述している。	地震火災に強い地域の在り方について、適切に記述していない。

⑶　板書計画



⑷　授業観察の視点

ア　生活圏内の地域の安全性を評価させる際に活用した諸資料は、関東大震災以降の東京の街づくりと関連付けられ、多面的・多角的な考察を促す上で効果的であったか。

イ　ＯＰＰＡに基づく振り返りシートの活用は、生徒の学習内容の定着や学習意欲の向上を図る上で効果的であったか。